

新市立図書館 ゆとりの空間、快適読書 開館準備が整う

2017年03月12日／紙面：山陽新聞朝刊／掲載：28ページ／



新図書館の雑誌コーナー。旧図書館の2倍の100誌がそろそろ



おはなしのへやなどのスペースを備えた児童書コーナー

メルカ2階に移転する市立図書館は、4月1日の開館まで半月余り。真新しい書棚や閲覧機が配置された館内では、運び込まれた本が所定の場所に並べられ、利用者を迎える準備がほぼ整った。ゆとりのある空間で、快適に読書が楽しめそうだ。

旧図書館の2・5倍、約2300平方メートルのフロアは、白を基調にした落ち着いたデザイン。書棚と書棚の間が広く、机やいすも適度な間隔で配置している。閲覧席数は185席で、旧図書館(66席)の約3倍になる。

入り口の右側には雑誌コーナーがある。購入料を負担してもらった代わりに、カバーに広告が掲載できる「雑誌スポンサー」を募った効果もあり、旧図書館時代の2倍の約100誌がそろそろ。

利用者にとって便利な仕組みも。本を借りる手続きが自分できる、自動貸し出しシステムを導入し、予約した本を入れておいてもらえる予約棚も備える。利用者同士で会話ができる「ママともコーナー」、読み聞かせ用の「おはなしの

へや」など、目的に合わせたスペースがあるのも特徴だ。

10日は、市内の高校生有志でつくる「としょかん応援隊」の44人が、本の整理など手伝い、幼児クラブの見学会もあった。玉野高校2年の定金菜摘さん(17)は「新しいだけでなく、広くて席数が多いので、落ち着いて本が読めそう。オープンが楽しみ」と話していた。

内覧会を31日午後1時、2時、3時の3回開催。定員は当日各回先着順で約50人。(角南邦彦)